

豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校のよりよい教育環境を実現する
ための基本方針

平成29年9月19日

豊明市長 小浮正典

平成29年8月7日付け豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会の答申を受け、両校のよりよい教育環境の実現のために下記を基本方針とする。

記

1 両校の統合について

両校を統合し、クラス替えを行える規模にすることにより、人間関係の固定化を防ぎ、将来を担う子どもたちが今よりもさらに広い人間関係を構築できるようにする。

2 1クラスあたりの児童数について

全学年において35人を上限とした学級編制（以下「35人学級」という。）をし、児童一人一人の個に応じたきめ細かい指導を行えるようにする。

3 外国籍児童の日本語教育について

日本語の習熟が十分でない外国籍児童にきめ細かく日本語を指導するため、空き教室を利用し、習熟レベルに合わせた取り出し授業をさらに充実させる。

4 統合後の学校について

35人学級や外国籍児童の日本語指導を行うため、収容規模の大きい双峰小学校を使用する。ただし、新設校と位置づけ、校名・校章・校歌は新しいものとする。

5 統合の時期について

統合の時期については、円滑な移行のための十分な準備期間が必要なことから、平成33年4月以降とする。その間に学校名の検討、両校の交流、学校施設や通学路の整備等を行う。

6 学区及び通学路について

統合後の学区は、現在の双峰小学校及び唐竹小学校の学区とする。ただし、児童の安全な通学の観点から通学路を検討するとともに、公共交通機関等を利用した通学についても保護者と共に検討する。

7 両校の伝統や行事などについて

新設校においては、両校において長年培われてきた伝統や行事などを尊重し、生かす。また、「特別活動や学校行事などで児童が活躍できる機会が多い」、「学年を超えた交流ができる」など小規模校としてのメリットを生かせるような教育環境を作る。

8 両校の児童の精神的なケアについて

統合前後における児童の精神的な負担を軽減させるため、大学などの専門機関の協力のもと、児童及び教職員へのカウンセリングを充実させる。

9 跡地利用について

統合後の唐竹小学校は、市の公共施設として維持し、子育て関係の施設を中心に複合施設として利用するとともに、地域に意見を聞き、地域の拠点や災害時の避難所としても活用する。

10 中長期計画について

建て替えの時期までは、新設校において新たな統廃合の検討は行わない。

11 事後評価について

市長部局は、教育委員会の協力のもと、統合後初年度は学期単位、以後は1年単位で、教員・児童・保護者を対象にアンケートを行い、よりよい教育環境となっているかについて事後評価を行う。